

哨戒艦に係る調達の手当方の決定について

令和5年度以降の哨戒艦に係る調達の手当方については、公募により企画提案を募り、哨戒艦の設計・建造能力を有すると評価した者と企画提案契約を締結し、契約に基づき提出された企画提案書について評価を実施してまいりましたが、本日、下記のとおり調達の手当方を決定しましたので、お知らせします。

1. 調達の手当方

- (1) 主契約者：ジャパン マリンユナイテッド(株)
- (2) 下請負者：三菱重工業(株)

2. 選定理由

- ジャパン マリンユナイテッド(株)及び三菱重工業(株)の企画提案書には、提案を要求したすべての項目に記載があることを確認した。
- 第1段階評価においては、各社の提案に対し、すべての必須要求事項について評価基準を満たすか否かを防衛省側で評価し、その結果、各社いずれの提案もこれを満たした。
- 第2段階評価においては、各社の提案に対し、予め提示した「高度な艦艇設計・建造」、「搭載装備品などに係る関連企業の管理能力」、「設計から維持整備までの一元管理能力」の観点から総合的な評価を行い、これらの評価点の合計が最も高かったジャパン マリンユナイテッド(株)を主契約者、2番目に高かった三菱重工業(株)を下請負者として選定した。

3. その他

- 調達の手当方決定までの経緯
 - 令和3年10月29日(金) 「哨戒艦に係る企画提案契約」に参加する企業を募集(公募)
 - 令和4年 2月 1日(火) ジャパン マリンユナイテッド(株)及び三菱重工業(株)と企画提案契約を締結
 - 3月25日(金) 各社から企画提案書を受領
 - 6月30日(木) 哨戒艦に係る調達の手当方を決定
- 今後、所定の手続を経て、「基本設計に係る基礎資料の作成」契約を締結し、令和5年度以降に建造契約を締結予定。

1. 概要

- 哨戒艦は、主として平素における警戒監視に効果的に対応するため、**長期滞洋性を有し、自動化・省人化を図った艦艇**
- 哨戒艦の建造に当たり、企業から**技術的に優れた提案を募る、企画提案方式を採用し、1隻当たり約90億円の建造費用を前提**とした企画提案契約を締結
- 企画提案書を、以下の観点から総合的に評価した結果、**ジャパン マリンユナイテッド(株)を主契約者、三菱重工業(株)を下請負者**として選定
 - ① 高度な艦艇設計・建造
 - ② 搭載装備品などに係る関連企業の管理能力
 - ③ 設計から維持整備までの一元管理能力



<企画提案方式とは>

- 防衛省から、取得予定艦艇の目標価格と要求性能等を示し、それらを満たす中で最も優れた企画提案を採用する。
- 企画提案を採用された者（1位者）は、取得予定艦艇の設計及び建造の主契約者（随意契約）となる
- 企画提案で次点となった者（2位者）に、提案を採用された者の下請負者として、設計に参画するとともに一定隻数の建造を担う

2. 企画提案契約の経緯

令和3年10月29日 「哨戒艦に係る企画提案契約」に参加する企業を募集

令和4年 2月 1日 ジャパン マリンユナイテッド(株)及び三菱重工業(株)と企画提案契約を締結

3月25日 各社から企画提案書を受領

- 各社から提出された「企画提案書」については、以下の評価要領に基づき、評価を実施

1. 段階評価の実施要領

段階	評価要領
第1段階評価	<ul style="list-style-type: none">➤ 提案に対し、すべての「必須要求事項」について評価基準を満たすか否かを評価➤ 1項目でも評価基準を満たさないものがある提案は選外
第2段階評価	<ul style="list-style-type: none">➤ 必須要求事項をすべて満たす提案が複数ある場合に実施➤ 提案要求事項については、加算方式で評価

2. 各段階評価に際しての公正性、透明性の確保に係る配慮事項

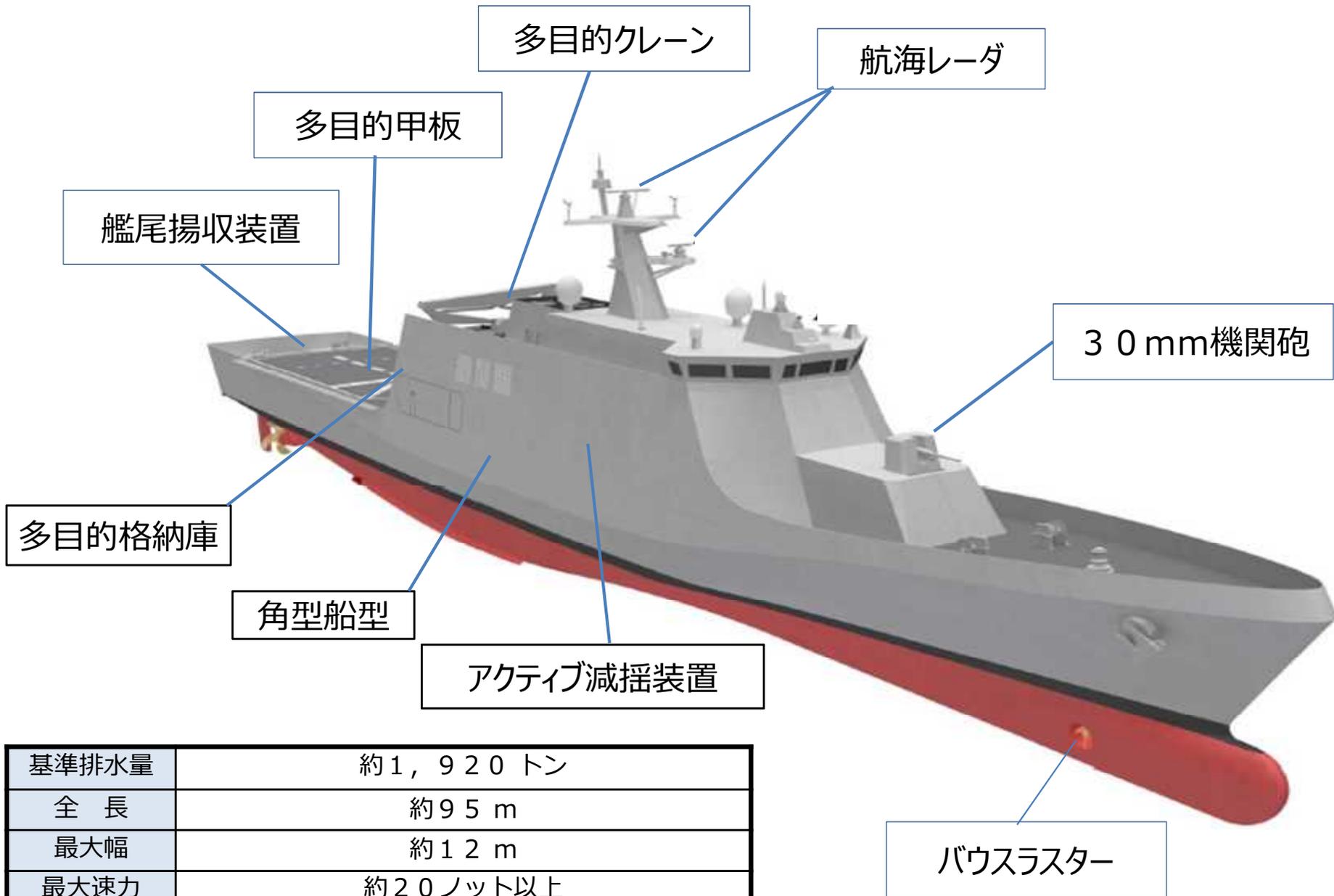
- **事前に作成した評価基準書**に基づき評価を実施
- 評価結果に対しては、**重層的な審査**を実施

1. 第1段階評価の結果

2社の提案とも、すべての「必須要求事項」について評価基準を満足

2. 第2段階評価の結果

評価項目		高得点者	主な評価
高度な艦艇設計・建造	概念設計	ジャパンマリンイテット	年間燃料消費量等において、より優れた提案
	運用要求に対する達成度	ジャパンマリンイテット	減揺装置の方式、ぎ装上の対策等において、より優れた提案
	省人化及び省力化への対応状況	ジャパンマリンイテット	離着舷・応急の省人化・省力化等において、より優れた提案
搭載装備品などに係る 関連企業の管理能力	事業管理能力	ジャパンマリンイテット 三菱重工業	両社同等の提案
	コスト管理能力	ジャパンマリンイテット	ライフサイクルコスト等において、より優れた提案
	サプライチェーン管理能力	ジャパンマリンイテット 三菱重工業	両社同等の提案
	品質管理能力	ジャパンマリンイテット 三菱重工業	両社同等の提案
	装備移転への対応	ジャパンマリンイテット 三菱重工業	両社同等の提案
	提案内容の成熟度	ジャパンマリンイテット 三菱重工業	両社同等の提案
設計から維持整備までの一元管理能力	可動状態の維持	ジャパンマリンイテット	可動期間等において、より優れた提案



基準排水量	約1,920トン
全長	約95m
最大幅	約12m
最大速度	約20ノット以上
機関形式	CODLAD形式 (ディーゼル電気・ディーゼル複合推進方式)